

PSC 製本管理システム「綴之助」導入

ナショナル製本協同組合（東京都板橋区、藤本繁幸代表理事）は、主に出版社や大手印刷会社などを取引先に、実用書や小説、コミックの製本から発送までを一貫生産している。同協組は今年1月、10年以上使用してきた基幹業務システムをピー・エス・シー(株)の製本管理システム「綴之助」に切り替えた。切り替えた当初の理由は「圧倒的な価格差」であったが、運用を行っていく中、実務面でも様々なメリットが見えてきているようだ。

ナショナル製本協同組合

ナショナル製本協同組合（東京）は、主に出版社や大手印刷会社などを取引先に、実用書や小説、コミックの製本から発送までを一貫生産している。同協組は今年1月、10年以上使用してきた基幹業務システムをピー・エス・シー(株)の製本管理システム「綴之助」に切り替えた。切り替えた当初の理由は「圧倒的な価格差」であったが、運用を行っていく中、実務面でも様々なメリットが見えてきているようだ。

月産280万冊ほどの受注がある。オペレーターによる注がりますが、上製本の目視検査は並製本ならは年々少なくなっています。200〜300冊に1冊、上製本なら50〜100冊に1冊の頻度で抜きます。特に並製本は予備幹業務システムを見直す。

「不良は内部で食い止める。検査体制に自信」

理事は「実態としては協力が、並製本は多い時で

取り検査を行っている。を含めて5ラインあるの

「この検品体制により、で、受注状況に合わせて

「さすがに非生産設備に費用が掛かり過ぎると

「コンピュターは100パーセントはあり得ませ

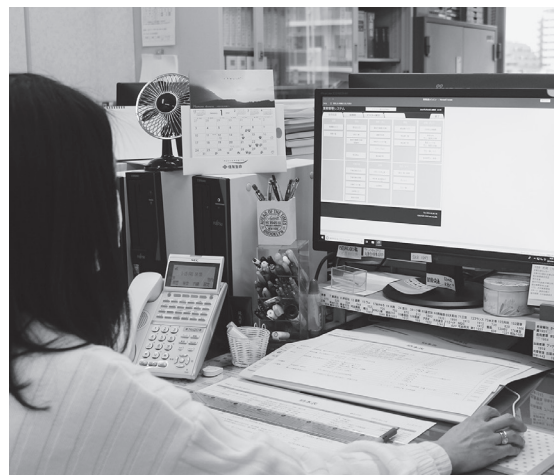
圧倒的な価格差で決断

10年以上使用のシステムから切り替え

また、生産キヤパを超えるような急な受注にも柔軟に対応し、納期を絶対に崩さないことも強みとしており、これをプロとしての誇りとしている。

「常用は62名ですが、そしてWindows10になった時、4000万円かかると言われ、これが10年以上使用してきた基幹業務システムを見直す契機となった。

「綴之助」と連携しているパソコンは19台。このうち、総務、営業、生産管理で使用している9台が入力可能にも増えており、製本も



「書体が見やすく、用語も分かりやすい」と事務スタッフ

書の作成など、財務面も含めたシステムにしても、エス・シーさんは嫌な顔一つせず、毎回、会社に来て対応してくれて、非常に感謝しています（青木専務理事）

特集

製本・後加工

POSTPRESS 2021



青木専務理事

「不良は内部で食い止める。検査体制に自信」

「この検品体制により、で、受注状況に合わせて

「さすがに非生産設備に費用が掛かり過ぎると

「コンピュターは100パーセントはあり得ませ

「不良は表に出さない。読者の手に渡る前に、内部で食い止める。これがナショナル製本の品質管理のモットーである。

「不良は表に出さない。読者の手に渡る前に、内部で食い止める。これがナショナル製本の品質管理のモットーである。

「綴之助」に切り替える際に、前のシステムと比べて見

「将来的には損益計算が、以前のシステムから進を期待したい。」